

## 第2期川越市子ども・子育て支援事業計画【中間年見直し版】(原案)に対する意見と市の考え方

原案 関連 ページ		意見の内容	市の考え方	計画案の 修正有無	修正 ページ
1	-	<p>第3子への補助しかないことに失望している。近年の物価高、円安への影響があるにもかかわらず、目に見える救済もない。子ども達にもっと支援をしてほしい。<u>小中学校の給食費無料や、働いていない家庭でも学童の利用が出来るように</u>してほしい。ファミリーサポートを利用するハードルが高く、見ず知らずの大人と過ごすより、学童の方が安心して過ごすことができる。</p> <p>また、学区の区切りに疑問がある。家の近くに学校があるにもかかわらず、学区外だからと言う理由で通うことができず、遠い小学校へ通わなくてはならない。<u>学区境の家の子は柔軟に選べるように</u>してもらいたい。<u>小学校を学区で区切るのではなく、家庭の意思で選べるように</u>すれば、小学校ごとの特色も生まれるのではないか。</p>	<p>給食費の無償化につきましては、国や他自治体の動向を注視し、調査研究を進めてまいります。</p> <p>学童保育室につきましては、児童福祉法に基づき、保護者が労働等により留守となる家庭の児童をお預かりしております。放課後等の子どもの居場所としましては、新たな子どもの居場所づくりの検討を進めてまいります。</p> <p>学区につきましては、通学区域を定め、住所地により就学する学校を指定しております。そのため、ご家庭の自由意志で通学する学校を選ぶことは難しいものと考えております。</p> <p>いただいたご意見は今後のこども施策を検討する上で参考とさせていただきます。</p>	無	-
2	6-17	<p>保育園の待機児童について、数字で見ると待機児童は一見減っているように見えるが、実際は地域によっては近隣に保育園がなく、待機児童が増加している。特に、福原地区(今福下)や武蔵野の辺りは新興住宅が増えており、子供の数も多い。高階地区には公立が3園あるが、この辺りには私立さえもない。保育園がないため、仕方なく働くことを諦めたり、就業条件を変えて幼稚園に通わせている場合も多々ある。データだけで待機児童の実際を判断されては困る。<u>全体の地域をみて判断して欲しい。</u></p> <p>そして、<u>老朽化の保育園を建て替えるのであれば、川越駅の近辺や福原地区など、全体のバランスを見て新たに建築予定地を考えていただきたい。</u></p>	<p>待機児童対策については、保育の質を落とすことなく保育ニーズ等を把握のうえ、必要な保育定員を確保してまいります。</p> <p>福原地区につきましては、令和5年度には福原地区内の幼稚園の認定こども園化に伴い、保育定員の増加を見込んでおります。</p> <p>公立保育所の整備につきましては、保育ニーズを踏まえた上で、施設の老朽化、市域全体のバランス等も勘案したうえで進めてまいりたいと考えております。</p>	無	-
3	5 22 23	<p><u>「川越市教職員研修事業」の研修内容はどのようなものか。</u>従来は学習方法、学習内容や一人一人の子どもへの接し方など多岐に渡っていたと思う。現在はコロナ禍ということで、感染予防対策に関して大変ナーバスになっている。従来の研修内容に加え、健康な子どもが常時マスク着用することや黙食、ソーシャルディスタンス等の指導をして触れ合いを避けさせることが、子ども達にどのような影響を与えているか等の問題点をしっかり考えていただきたい。参考資料として、マスク社会が危ない子どもの発達に「毎日マスク」はどの影響するか？(宝島社新書)明和政子さん著を推薦したい。人間は機械ではないので、風邪を引いて寝込むことがあって、身体を休めるということも必要なこともある。そもそも健康であるというのがどのような状態なのか、その辺りの正しい知識についても今一度、学び考える必要があると考える。子どもと共に考えることができるように、<u>教職員の方々の研修項目に真の健康とはどういうことかを加えていただきたい。</u></p> <p>また、学習というものは教科書通りのことを学ぶことだけではない。教育内容としては、文科省も推薦している「夢見る小学校」の映画をぜひ教職員の方々に鑑賞していただくことを勧める。</p> <p>「児童育成支援拠点事業」に関して、「不登校の子ども等を含め、家庭や学校に居場所がない学齢期以降の子どもの居場所に関する包括的な支援を検討します。」とあるが、不登校になってしまう原因のひとつとして、過剰すぎる新型コロナ感染予防対策もあるのではないかと考える。<u>新型コロナ感染予防対策の緩和を進め、教職員の方々が理解していけるように研修を行っていくことが大切だ</u>と思う。<u>不登校の原因は様々だが、子どもだけでなく家族全体が抱えてしまう重大な問題になるので、原因究明と対策をしっかりと行い、不登校を減らす取り組みが必要である。その上で、どうしても通えない子どものための対策として、フリースクールへの助成や支援を考えていただきたい。</u></p> <p><u>「児童発達支援センターの運営」に関して、まず発達障害ということ自体、なぜなのか原因を考え、様々な対策を行うことが必要である。</u>母体自体や胎児段階からの栄養不良や早産による脳の発育不良も原因のひとつにあると考える。発達障害の子どもは、極端な偏食(白飯しか食べない、お菓子やカップ麺しか食べない等)が多いとのこと。発達障害を改善させる方法として、ミネラル不足を補うための食事療法がある。この方法を伝えている国光美佳さんという方が埼玉県にいる。食を変えることで改善されているケースが多数あり、効果は実証済である。国光美佳さんの著書として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障害にクスリはいらない(子どもの脳と体を守る食事)(マキノ出版)</li> <li>・食べなきゃ、危険!【新装版】 食卓はミネラル不足(フォレスト出版)</li> </ul> <p>等がある。この他にも現在、育児雑誌「クーヨン」にも連載されている。</p> <p>こういった本を参考にしながら、発達障害を改善させる方法を実践することが重要である。</p> <p>現状では日本の明るい未来は見えてこない。川越の子ども達が将来の日本を背負っていけるよう、個性を生かし、それぞれの分野で活躍していけるような政策が進められることを願っている。</p>	<p>「川越市教職員研修事業」の研修内容につきましては、教職員の経験段階及び職務に応じた知識・技能の習得を図る経験者研修・特定研修の他、教職員自らが希望して参加できる専門研修等を実施しております。今般の新型コロナウイルス感染症拡大等、子どもたちを取り巻く環境が劇的に変化する時代にあっても、次代を担う子どもたちを育成する教育者としての使命感や責任感をもち、指導力と豊かな人間性を高める研修を計画・実施しております。</p> <p>令和4年度の養護教諭研修会では、講師を招き、常時マスクによる子どもたちへの影響について学ぶ機会を設けております。今後も養護教諭研修会や保健主事研修会等で常時マスクを着用することの子どもたちへの影響や真の健康について学べるよう研修内容を検討してまいります。</p> <p>不登校の現状につきましては、今後も継続して各市立学校と情報共有し、実態把握に努めるとともに、児童生徒やその保護者に寄り添った支援を行ってまいります。また、学校以外の居場所として、川越市立教育センター第一分室「教育支援室」をさらに活用できるようにするとともに、教育相談の充実を図ってまいります。</p> <p>児童発達支援センターでは児童の発達の状況や特性に応じた支援を実施しており、ご指摘いただきました偏食をはじめ、児童それぞれが有する発達の特性に対応した支援を引き続き実施してまいります。</p>	無	-